

令和3年度 宮崎地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために地域活動や地域ケアプラザの活動が制限されていました。活動が制限されたことで、高齢者の身体機能低下が引き起こされ、また全世代で人とのつながりが途切れがちとなりました。
令和3年度は、感染拡大防止に努めながらも必要な活動を再開出来るよう支援していきます。また、相談員が、ケアプラザの自主事業や地域活動の場へ積極的に参加することで、困りごとを気軽に相談できるようにしていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ワンストップ相談窓口を目指して、高齢者のみならず、障がい児・者や子どもの相談を受け付ける機関であることを周知します。実際の支援にあたっては、障がい児・者や子ども分野の相談機関と、速やかに連携します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	個別レベル地域ケア会議を通して、民生委員児童委員や地域活動の担い手さんと医療・福祉の専門職が顔を合わせ、お互いの「出来ること」「出来ないこと」について情報共有し、一緒に支援できるようにしていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	担当地区の児童・生徒やその親世代が認知症について正しく知る機会として、夏休みなどの長期休み中に認知症サポーター養成講座を開催します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	自主事業では、フレイル予防として運動や筋トレ(ペタンクや輪投げのチーム対戦、パタカラ体操、ころばんよ体操、単発でのウォーキング)を推奨していきます。 また、障害児余暇活動では、新しいことにチャレンジできるように、小学生だけでなく、中高生に参加者を広げて交流を図ります。 ボランティア育成では、シニアボランティアポイント研修を開催し、ボランティアの参加を呼びかけます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	高齢者の介護予防・社会参加を促進し、社会的孤立を防ぐための住民による居場所・サロンの運営支援を継続的に行っていきます。また、地域住民との勉強会を通して、必要な社会資源の創出をしていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

ケアプラザが全ての方の相談窓口機関であることを周知する目的で、町内のお食事会や、クリスマス会の他、薬局や、治療院などの新たな所にも周知しました。個別レベル地域ケア会議の開催を通して、民生委員・児童委員や、地域活動の担い手、医療福祉の専門職間で、振り返りを行いながら、関係者間のネットワーク構築と連携を進めることができました。

また、当ケアプラザにて、夏休み期間中に認知症サポーター養成講座を開催し、担当地区の児童・生徒やその親世代へ、認知症について正しく知る機会を提供するとともに、戸部コミュニティハウスでも地域住民向けに、講座を開催しました。

自主事業は継続して口腔体操を含めた運動や筋トレでフレイル予防を推奨し、体操団体等には自主事業講座協力の声かけをしました。ラジオ体操の開催で近隣住民と顔を合わせる関係もでき、まつりでの担い手参加につなげることができました。余暇活動は開催に至らなかったが近隣の施設に呼びかけまつりへの参加につなげました。

高齢者の介護予防や、社会参加、社会的孤立を防ぐ目的で、赤門町・東ヶ丘での地域住民との勉強会を再開し、地域に必要な居場所・サロンなどの社会資源ニーズについて協議を進めることができました。

区からのコメント

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止等に留意しながらの地域ケアプラザ運営にご尽力いただき、ありがとうございます。地域では、コロナ禍により活動の場が減少する中、居場所などへの高いニーズや、高齢者のフレイル予防を意識した事業を検討・実施したことで、着実な成果を上げています。また、「屋どきラジオ体操」の継続実施を通して、地域ケアプラザへの新規利用のきっかけを作るとともに、地域住民のゆるやかな見守り・つながりの場として機能していることも評価に値します。

さらに、「地域ケアプラザまつり」については、従来の形での開催が難しい中、活動団体の発表の場や交流の場づくりなどの視点を取り入れ、工夫しながら実施できたことは大きな成果だと考えます。
次年度以降は、課題認識ながらも実施できなかった事業や会議開催等について、更なる工夫により実現されることを期待します。